

中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会 (第39回)

国立公園満喫プロジェクト関係説明資料

- ① 国立公園満喫プロジェクト等推進事業(令和2年度
予算案等)
- ② 国際観光旅客税財源を活用した国立公園のインバ
ウンドに向けた環境整備(令和2年度予算案)
- ③ (参考資料)
国立公園満喫プロジェクトの最近の取組状況

【令和2年度予算（案） 17,871百万円（16,253百万円）】

【令和元年度補正予算（案） 6,705百万円】

世界水準の「ナショナルパーク」を実現し、国立公園等の保護と利用の好循環により、地域活性化を図ります。

1. 事業目的

- ① 日本の国立公園のブランドイメージを確立し、インバウンドの誘客を促進
- ② インバウンド対策を通じ、外国人とともに日本人も国立公園や国民公園の魅力を満喫できるようにする
- ③ 利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし消費単価や満足度の向上するための施策を実施し、地域に経済効果をもたらす、一層の自然環境の保全への再投資を促進

2. 事業内容

*：国際観光旅客税を活用した事業

平成28年3月に政府（議長：内閣総理大臣）がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置づけられ、**2020年に国立公園訪日外国人利用者数を年間1000万人**とする目標を掲げている。**2018年の当該利用者数は約694万人**となり、**利用者数の更なる増加と受入環境整備の強化、満足度の向上**に向け、国立公園を磨きあげる以下の取組を実施する。合わせて、国民公園の魅力向上を図る。

- ・滞在環境の上質化*：利用拠点の滞在環境の上質化、多言語解説の整備・充実
- ・魅力あるコンテンツづくり*：アクティビティ等と組み合わせたグラブング、国立公園ならではの「食」やナイトタイムを生かしたツアー等の造成、野生動物観光の促進。ビジターセンターのインバウンド対応機能強化とデジタル技術を活用した展示促進
- ・基盤的な利用施設の整備／長寿命化：登山道の再整備、キャンプ場リニューアル等
- ・受入環境の整備：ガイド等の人材育成、利用者負担による保全の仕組みづくり等
- ・海外への情報発信：旅行博等への出展、JNTOとの連携によるプロモーション強化*等
- ・新宿御苑や京都御苑の魅力向上*：歴史的遺構の整備や体験型コンテンツの造成等

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業／補助事業／交付金
- 請負先 民間事業者・団体／都道府県・市町村
- 実施期間 平成28年度～

4. 事業イメージ



廃屋撤去跡地の新たな民間事業導入、景観整備



（イメージ）デジタル展示
デジタル技術の活用



グラブングや「食」、文化・歴史等の国立公園の資源活用によるコンテンツづくり



Uni-voiceコードによる多言語解説



アドベンチャートラベル層に向けたキャンペーン展開（JNTOとの連携）



新宿御苑におけるバックヤードツアーの造成

国際観光旅客税財源を活用した 国立公園のインバウンドに向けた環境整備

令和2年度予算(案)6,862百万円(5,080百万円)

国立公園の磨き上げ

利用拠点の滞在環境の上質化

- 外国人旅行者の満足度向上、長期滞在促進のため、
- 地域で策定する利用拠点計画に基づき、廃屋撤去、既存施設のリノベーション、まちなみ改善等、利用拠点の面的な再生を推進



- 核心的な景観地の利用施設改修を支援



魅力あるコンテンツづくり

- 上質な宿泊体験、アクティビティ、食事等を組み合わせた外国人旅行者にとって魅力あるグランピングの推進



- 地域独自の自然・文化等のストーリーを伝えることによる、国立公園ならではの「食」等の魅力向上

- 野生動物の保護の現場と屋外の野生動物の観察を組み合わせたストーリー性のあるツアー開発の支援



- 国立公園ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しめるナイトタイムコンテンツの造成を支援



国立公園の魅力発信

- デジタルサイネージ等において、アクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供



(イメージ) デジタル展示

- 国立公園の他地域へ誘導するために、インバウンド利用が多く、効果が期待出来る地区にデジタル展示を導入

- 【複数泊、高単価】【地域の自然・文化体験】【安全かつ高品質なツアー】の視点を重視したアドベンチャータラベル層に向けたキャンペーン展開(JNTOとの連携により実施)



国民公園の魅力向上

新宿御苑における取り組み



- 武家屋敷、皇室庭園としての歴史・文化を発信
- ネイティブ監修によるガイドツアーの造成

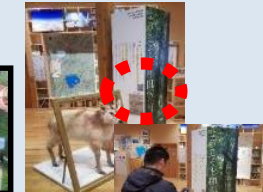
京都御苑における取り組み



- 総合案内所(閑院宮邸跡)の機能強化や拾翠亭(茶室)利用拡充のための環境整備
- AR(拡張現実)による歴史的遺構解説

多言語解説の整備・充実

- 全国34国立公園等を対象に、案内板・展示等における英語・中国語等の多言語解説整備を加速



(Uni-voiceコードによる多言語解説)

(QRコードによる多言語解説)



(参考資料)
**国立公園満喫プロジェクトの
最近の取組状況**

国立公園満喫プロジェクトにおける最近の取組状況

① 公共施設の民間開放

○公共施設の整備運営に民間ノウハウの活用

- ・ **大山のキャンプ場の再整備**において、環境省として初めて**設計・施工・運営までを一体的に民間に委ねる契約方式を採用。（株）モンベルを代表法人とした共同事業体のノウハウを活かし、質の高いサービス提供を目指す。**

（令和元年10月事業者選定、令和3年度供用予定）

大山隠岐国立公園



サービス提供イメージ
（写真：株式会社モンベル）

② 多様な宿泊サービスの提供

○分譲型ホテル等の認可に係る規制緩和

- ・ 国立公園において**分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する規制緩和を実施。**
本年9月30日に新たな審査基準を施行。

全国立公園

○上質な宿泊施設の誘致

日光国立公園

- ・ 日光では**2020年5月にラグジュアリーホテルが開業。**
大使館別荘記念公園にアクセス可能な栈橋設置などの環境整備を実施したほか、富裕層を含む幅広い層を受け入れるための旧大使館別荘の活用等について検討中。



2020年5月開業予定の「ザ・リッツ・カールトン日光」

国立公園満喫プロジェクトにおける最近の取組状況

③ 民間事業者等との連携

○オフィシャルパートナーとの連携

- 7月に新たに14社と新規締結（計75社）。DMOやメディア等の分野が充実

最近の取組例：

- 2019上期、国立公園をテーマにした商品造成・キャンペーンを全国展開（JTB「日本の旬」、日本旅行「国立公園を感じる旅」）
- 国立公園をテーマにした旅行商品の造成の継続（休暇村協会、JR東日本、KNT-CTホールディングス、東武鉄道）
- 地方銀行がプロモーション動画を作成し、上海で現地旅行エージェント向け説明会を開催（鹿児島銀行@霧島錦江湾国立公園）
- 中禅寺湖において遊覧船の新発着所を開設（東武鉄道@日光国立公園）



④ 景観改善

○廃屋撤去による新たな商業施設の導入

- 三瓶山エリアにおいて、閉鎖したスキー場関連施設を地元自治体が平成31年3月までに撤去完了。
- 跡地は民間事業者が運営するワイナリー等と一体的に活用し、10月に郷土料理などを提供するレストランがオープン。

三瓶山の自然景観を活かし
地域ブランドづくりを行う利用拠点として再生
新たにオープンしたレストラン



【撤去した廃屋】



大山隠岐国立公園

旧スキー場施設を改修したワイナリー・売店

国立公園満喫プロジェクトにおける最近の取組状況

⑤ コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化

○夜のコンテンツの充実

- 阿寒湖にて、光と音響等で演出された国立公園の夜の森を歩き、自然とアイヌ文化を体感する「カムイルミナ」が7月よりOPEN。11月までに3万4160人が参加。

阿寒摩周国立公園



○日本の国立公園コンテンツ集の充実・誘客力の強化

- 国立公園コンテンツ集について、先行8公園を含む17公園のコンテンツに拡充。計185コンテンツ、44コースを掲載

(昨年度は計103コンテンツ、23コース)



【十和田八幡平国立公園】
十和田湖カヌーツアー



【日光国立公園】
那須岳スノーサイクリング



国立公園満喫プロジェクトにおける最近の取組状況

⑥ 基盤整備

○受入れ環境整備の向上

【民間施設へのビジターセンター開設】

- 平成31年3月、阿蘇火山博物館（民間施設）内に**阿蘇山上ビジターセンターを整備**。
- 多言語による展示に加え、博物館内には民間カフェも併設され、11月には来場者数が**30万人を突破**（うち外国人3.3万人）



QRコードによる多言語化



ビジターセンター入口



【阿蘇山上ビジターセンター】

【佐多岬の一体的整備と周遊型観光】

- 環境省・鹿児島県・南大隅町が連携し一体的な整備を進めてきた**佐多岬公園が平成31年3月にグランドオープン**。
佐多岬展望台を再整備すると共に、佐多岬公園のエントランスにある休憩所では観光案内やガイドツアー受付、コーヒー等を提供。
雄川の滝も含めた一体的な整備、情報発信により、**周遊型の利用者数が増加**。（2018年、佐多岬は前年比約2倍の約10万人、雄川の滝は前年比約3倍の約16万人に）

霧島錦江湾国立公園

【佐多岬展望台】



【雄川の滝】



【ガイドツアー】

●交付金による地方公共団体への支援も実施

国際観光旅客税を活用した国立公園の磨き上げ①

利用拠点の滞在環境の上質化

□ 国立公園の利用拠点における滞在環境の刷新を促進

これまでの主な取組

□ 跡地への民間導入を前提とした廃屋撤去（5箇所）、まちなみ改善に向けた外観修景（3箇所）等を実施中



景観、眺望を阻害している旧宿舎（三陸復興国立公園・岩手県普代村）



撤去跡地活用イメージ

廃屋撤去、跡地への民間導入を核に、周囲のトレイルルートや休憩施設における多言語サイン整備、トイレ洋式化等とあわせ、利用拠点を上質化

今後の更なる取組

□ 地域で策定する利用拠点計画に基づき、廃屋撤去（7箇所程度）、既存施設のリノベーション等面的な利用拠点上質化整備に加え、国立公園の核心部での利用の上質化を促進



魅力、活気のない旧来型の施設



（イメージ）

地域の関係者が連携し面的な滞在環境の上質化を促進

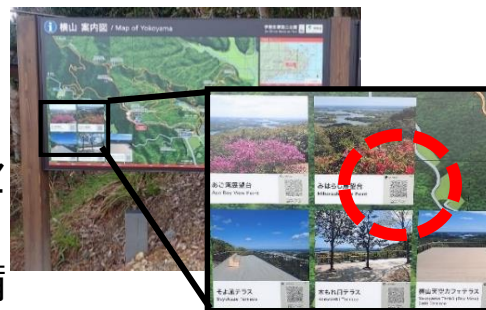
国際観光旅客税を活用した国立公園の磨き上げ②

国立公園における多言語解説の整備・充実

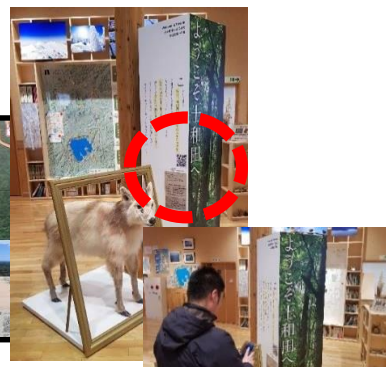
- 国立公園の見どころ等について、ICT等多様な媒体により外国人に魅力的な多言語解説を充実

これまでの主な取組

- 20国立公園において、公園案内板やビジターセンター展示（約40箇所）等の多言語解説整備に取組中



伊勢志摩国立公園
(Uni-voiceコードによる多言語解説)



十和田八幡平国立公園 (QRコードによる多言語解説)

今後の更なる取組

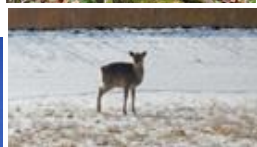
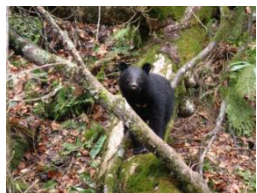
- 全国34国立公園等を対象に英語・中国語等の多言語解説整備のさらなる加速化

野生動物観光のコンテンツづくり推進

- 全国各地で野生動物保護施設の公開を含むインバウンド野生動物ツアーを造成

これまでの主な取組

日本の野生動物を満喫する魅力的なツアーの開発を支援(12箇所)、保護施設(3箇所)の改修



今後の更なる取組

保護施設の見学システムの構築
野生動物の保護の現場と屋外の野生動物の観察を組み合わせたストーリー性のあるツアー開発の支援。



国際観光旅客税を活用した国立公園の磨き上げ③

ビクターセンターのインバウンド対応機能強化と利用促進の強化

□ 予約機能を備えたデジタルサイネージ等において、自然を満喫できるアクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供



アクティビティ情報の提供（イメージ）

□ 最新デジタル技術を活用した国立公園を楽しむための解説の充実

これまでの主な取組

□ 18公園29施設において、デジタルサイネージやデジタル展示等を整備中

今後の更なる取組

□ 必要な機能の拡充等を行ったうえで、他公園・施設に展開予定

□ 利用が多い地区から少ない地区への利用の誘導



デジタル展示（イメージ）

グランピング等・地場産品等の提供の促進

□ 上質な宿泊体験、アクティビティ、食事等を組み合わせた外国人旅行者にとって魅力あるグランピングの推進



阿寒摩周国立公園



伊勢志摩国立公園

□ 地域独自の自然・文化等のストーリーを伝えることによる、国立公園ならではの「食」等の魅力向上